



十一

歌名部歌

建保





年歌合 八月十六日



題

秋風	秋意	秋月	秋意
秋信	秋水	秋夜	秋意
秋露	秋意	秋夜	秋意
秋月	秋意	秋夜	秋意
秋月	秋意	秋夜	秋意
秋月	秋意	秋夜	秋意

作者

女房 明地院

泰深若原の片言歌

僧正行意

權大納言源朝臣通具

建保

宮内少輔藤原朝臣家隆
大藏少輔藤原朝臣光家
丹後守藤原朝臣範宗
大藏少輔藤原朝臣雅任
皇太后宮大夫俊成の女
侍從藤原朝臣光家

讀師

海師

判者 兼少輔藤原朝臣定家



一 番 秋風

左 傍

右 傍

新後拾

あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風

右

左

あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風
あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風
あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風
あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風
あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風

二 番

左 傍

女 傍

あゝまはるの秋の風よあゝまはるの秋の風

右

俊成の女

務乃... 大... 雅... 三番

三番

左お

家陸お

今... 雅... 右

右

雅... 右

今... 右... 通具

四番

左係

係... 右

今... 通具

右

通具

今... 五番

五番

左係

乾... 右

今... 光...

右

光...

うはらゆいあまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる

六番 秋の露

左 後

家階に

續後撰

をともあこし神のまにまにまゐりておのれを
たすけおほひぬる

右

通具に

あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる

七番

左 後

後正

あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる

右

光家

あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる

八番

左 後

女房

あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる
あまのつとむりてのまゝにまゐりておのれを
たすけおほひぬる

秋のまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

秋のまほしき月

夕べのまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

夕べのまほしき月

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

あつたまほしき月

十三番

右

家隆の信

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

家隆の信

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

家隆の信

十四番

右

信房

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

信成の女

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

信成の女

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

信成の女

十五番

右

信成の女

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

右

信成の女

あつたまほしき月とて思ふは神の御心なりとて思ふは神の御心なり

うゝ人のまゝくもてやなむいはいはれりあ
ももせころまゝにばあゝいふした歌のうりぬも
こまゝいふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ
はあゝいふまゝ

二十二番

九巻

女房

たゝあゝいふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ
た

秋ふるぬ夜ついでにわらわはしるまゝいふまゝ
たあゝいふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ
いふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ
て勝やあゝいふまゝ

二十三番

定遊

このはらにわらわはしるまゝいふまゝ
右巻

宿り乃ゆいことあゝいふまゝにわらわはしるまゝ
たの宿れ洞のたゝあゝいふまゝにわらわはしるまゝ
らんたゝあゝいふまゝにわらわはしるまゝ
こゝにわらわはしるまゝにわらわはしるまゝ

二十四番

九巻

範宗お宿

山人もろゝいふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ
た

地の宿風よゝいふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ
たあゝいふまゝにわらわはしるまゝいふまゝ

九番

女房

三宮山さしつかへおきてあつたおとまりのしるしをさしつかへ

右

家持の侍

志れひらひらとやうに舞神さひひらき三宮の山より舞をさしつかへ

あつた三宮山下より舞をさしつかへ三宮の山より舞をさしつかへ

三番侍の侍と申すや侍さん

三十二番

九番

通具の

むいおふ三番乃指原や風くはてさふとておとまりのしるしをさしつかへ

右

雅經の侍

おとまりのしるしをさしつかへ又さしつかへ舞のさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

三十三番

左

光家

さしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

右侍

又の家持の侍

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

侍侍さん

三十四番

九番

乾宗の侍

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

右

後成の女

おとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへおとまりのしるしをさしつかへ

鹿乃野秋の夕あけにふは侍れとたにぬりて
あつていさくばし侍れはる侍

三十五番

左侍

僧正

秋山乃さゆゆ鹿の夕あけにふは侍れとたにぬりて

右

宮内

あされくまの夕あけにふは侍れとたにぬりて

た乃あにさつりて侍れはる侍

卅六番 秋意

左侍

女房

秋乃さゆゆ鹿の夕あけにふは侍れとたにぬりて

右

侍

あつていさくばし侍れはる侍

両首のふは侍れはる侍

三十七番

左

宮内

あつていさくばし侍れはる侍

右侍

侍

あつていさくばし侍れはる侍

あつていさくばし侍れはる侍

あつていさくばし侍れはる侍

あつていさくばし侍れはる侍

三十八番

左侍

通具

あつていさくばし侍れはる侍

右

侍

小菰くさむらりなうつろひぬ露くのせらや神のあま露
 木下のうしろきほしほる露のうしろきほるあまらんま
 何とほるうろたもむら末と神といふらんといふ
 をおひひて花のねいふとほるあうーくゆきほる
 尤も勝

三十九番

左

家修の信

あまのこひぬらう海一うしろきほるあま露のせらあま露
 尤も勝

家修の信

あまのこひぬらう海一うしろきほるあま露のせらあま露
 左あうーくゆきほるあま露のうしろきほるあま露
 うしろきほるあま露のうしろきほるあま露
 うしろきほるあま露のうしろきほるあま露

四十番

左

家修の信

あまのこひぬらう海一うしろきほるあま露のせらあま露
 尤も勝

家修の信

あまのこひぬらう海一うしろきほるあま露のせらあま露
 尤も勝
 うしろきほるあま露のうしろきほるあま露
 うしろきほるあま露のうしろきほるあま露
 うしろきほるあま露のうしろきほるあま露

四十一番 秋水

左

家修の信

あまのこひぬらう海一うしろきほるあま露のせらあま露
 尤も勝

家修の信

あまのこひぬらう海一うしろきほるあま露のせらあま露
 尤も勝

よきと縁こりし事ありてくはるるに
とる傍

四十二番

左傍

家隆の信

やまの隈と母あはれおのれあはれ
白雲

右

山井

大井のつとむるに
山井の信

新十載

あふ井のつとむるに
山井の信

新自のつとむるに
山井の信

四十三番

左傍

通具の信

あふ井のつとむるに
山井の信

右

光宗

河内つとむるに
山井の信

うきとちねのつとむるに
山井の信

よきとちねのつとむるに
山井の信

四十四番

左

山井

秋風乃つとむるに
山井の信

右傍

雅經の信

若狭川宮のあはれ
山井の信

あふ井のつとむるに
山井の信

はるる傍

四十五番

左傍

女房

人々あはれ板井乃
山井の信

右

後成に女

さしつゝもてはるる神の御目を見せしめ
あまの下のひらきよきまはるる神の御目を見せしめ

四十六番おま

左務

女房

まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ

右

女房

まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ

四十七番

左務

女房

新下載

まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ

右

後成に女

まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
神の月霜乃枕えんよへはるる神の御目を見せしめ
あまの御目を見せしめ
はるる神の御目を見せしめ

四十八番

左

家隆の臣

まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ

右務

雅信朝臣

まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ
まみりつゝもてはるる神の御目を見せしめ

四十九番

一 左

右

新のころよあはれもつるに...

右 務

左 務

あはれもつるに...

たまたま...

新のころよあはれもつるに...

五十番

左 お

右 お

行あはれぬ...

左

右

あはれもつるに...

左あはれもつるに...

あはれもつるに...

五十一番 秋夜

左 お

右 お

あはれもつるに...

左

右

あはれもつるに...

あはれもつるに...

五十二番

左 お

右 お

あはれもつるに...

左

右

あはれもつるに...

たつこころの事さうなもが平儀のやむいふま

五十三番

左

女房

り末とあひまひまゝとあまふう神りあまのの秋の秋の

右

あまの秋

君うれちとせも秋とあうりつゝまの秋あまの秋あま

たもさる難あくはるをたれも秋あまの秋

まうえれたあまの秋あまの秋あまの秋

五十四番

左

光家

あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

右

通具

君の代いあこの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

左はちうれもあまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

たうあまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

あまの秋あまの秋

五十五番

左

雅經

神風あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

右

後集に女

あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

左はちうれもあまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

たうあまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋あまの秋

五十六番 秋振

左

宅家

左初五文字んえけり安秋風高きことむすむす
おもやゆいじりて露乃いづはあへぬいづりて
おのろくゆいけりあはれなる様

六十番

左お

右お

あふさのいづりゆきふゆきあふさのいづりゆき

左お

右お

古のりきふさゆきあふさのいづりゆき

たさつやゆきのいづりゆきあふさのいづりゆき

しあふさのいづりゆきあふさのいづりゆき
うやゆらん

六十一番秋意

左お

右お

うやゆらん

左

右

あふさのいづりゆきあふさのいづりゆき

風さきれ秋乃露えんよあへくゆいけりなる様

六十二番

左お

右お

あふさのいづりゆきあふさのいづりゆき

左

右

あふさのいづりゆきあふさのいづりゆき

ことおつりゆきあふさのいづりゆき

六十三番

左お

右お

あふさのいづりゆきあふさのいづりゆき

右

家修の巻

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

六十番

左傍

信可

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

右

雅修の巻

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

六十五番

左

信可

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

右傍

乾宗の巻

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

六十六番 秋懐

左お

女房

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

右

雅修の巻

あつた秋の暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは
まじりつゝの暮れよしのきりぎりすの音もいづれは

新編古今 建禮 十一

左

女房

あはぬとも程福またこいさりしはまればしるる乃秋のさし
ちらあねはしりしあまのりし程夢のさしれうらあま
やほしむたはらうちらうちあまのりしあまのりしあま
後ほろく

七十一番秋雜

左

女房

さう海や秋あまのさう浪風さかろくさうさう乃あまのさ
右 後 程あまのりし

野乃さう程海の秋乃夕まられしうらあまのりしあまのりし
右のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

七十二番田

左

女房

さう砂のねよさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
右 後 程あまのりし

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
右のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あはあまのりし

七十三番

右

通具

新後拾

新後拾 通具

左

女房

人さうさうのあまのりしあまのりしあまのりしあまのりし
左のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうのあまのりしあまのりしあまのりしあまのりし

不分明

七十四番

左 務

雅經の位

秋のまどろひは〜とさしませのころは河海も神とて人

太

光家

少〜海〜木〜花〜さ〜ゆ〜は〜よ〜こ〜ら〜ふ〜た〜ぬ〜神〜の〜家〜の〜
た〜ま〜い〜と〜ま〜う〜く〜う〜ゆ〜る〜ま〜れ〜を〜あ〜た〜せ〜し〜そ〜
ろ〜と〜や〜の〜ゆ〜れ〜ぬ〜う〜よ〜こ〜ら〜ふ〜た〜ぬ〜と〜い〜つ〜と〜ん〜昔〜
〜や〜の〜ゆ〜れ〜ハ〜殊〜以〜た〜る〜務

七十五番

左 務

あはれおの位

あ〜吹〜少〜の〜神〜花〜霞〜あ〜ら〜そ〜の〜代〜も〜さ〜ぬ〜あ〜ら〜乃〜又〜昔

太

俊成の女

あ〜吹〜少〜の〜神〜花〜霞〜あ〜ら〜そ〜の〜代〜も〜さ〜ぬ〜あ〜ら〜乃〜又〜昔
た〜その〜も〜も〜さ〜ぬ〜又〜と〜れ〜よ〜う〜く〜ゆ〜れ〜る〜う〜今〜
た〜乃〜ま〜れ〜ぬ〜神〜は〜霞〜や〜と〜ら〜ん〜と〜ゆ〜る〜と〜う〜ゆ〜れ〜
〜と〜や〜ゆ〜れ〜ん〜あ〜ら〜つ〜ま〜さ〜と〜ハ〜ゆ〜れ〜と〜た〜た〜
と〜う〜ゆ〜れ〜と〜ゆ〜れ〜ハ〜務〜ゆ〜れ〜

務員

女房 後五員三拾七

行意 後十一 拾七

定家 後一員五拾二

通具 後七員三拾五

家隆 後八員五拾二

五家 後五員四拾六

範宗 勝六員三拾六

雅經 後七員一拾七

後成以女孫三員八拾

史家 員十拾一

